

特集

神経・精神科領域におけるデジタルメディスン

企画 本誌編集委員会

近年、神経・精神科領域でも、デジタルメディスンの存在感が急速に増している。プログラム医療機器（SaMD）やAI、ウェアラブルデバイスを活用した治療やモニタリングは、診療の質を変え、患者の生活を支える新たな選択肢となりつつある。一方で、制度・倫理・実装面の課題も浮き彫りとなっている。本特集では、デジタルメディスンの定義と位置づけから、国際的な比較、産官学の連携、各疾患での応用、そして倫理的検討までを多角的に展望する。この新たな医療の潮流を、いかに実際の医療現場での活用につなげていくか、その道筋をともに考えたい。